

地方創生推進交付金 事業実施報告

1 交付金の目的

地方公共団体が、地方版総合戦略に位置付けられ、地域再生法に基づく地域再生計画に記載された自主的・主体的で先導的な事業の実施に充てるため、国が地方公共団体に対して交付金を交付することにより、地方公共団体による、それぞれの地域に実情に応じたまち・ひと・しごと創生に資する事業の効率的かつ効果的な実施を図ることを目的とする。

2 対象事業

地方公共団体において、それぞれの地方版総合戦略に位置づけられた（又は位置づけられる予定である）事業であって、観光の振興、農林水産業の振興その他の産業の振興に資する事業。

3 事業の概要

(1) 事業名

男鹿版 DMO を核とした地域ブランドづくり推進事業

(2) 担当部課

観光文化スポーツ部 観光課

(3) 実施期間

平成30年4月～平成31年3月

(4) 事業費（実績額）

39,465,517円

（うち地方創生推進交付金 19,671,591円）

(5) 全体事業の概要

行政及びDMO法人である男鹿市観光協会、加えて市内の多様な事業者が参画する「男鹿市観光推進機構」における観光振興に関する方針や男鹿の将来像の共有により、各産業が連携した地域素材の磨き上げと商品化、継続的なマーケティング調査、一元的な情報発信・プロモーション、受入環境を整備し地域ブランドづくりを推進し、「稼ぐ（稼げる）地域づくり」を目指すものである。

DMOにおいては、ユネスコ無形文化遺産に登録された「男鹿のナマハゲ」や続日本100名城に選定された「脇本城跡」などを代表とする「文化」、豊富な自然・アクティビティ・海山の食材を活用し「自然体験」を題材とした旅行商品の造成と売込を国内外において実施することにより、誘客及び消費拡大を図る。

また、国内需要の受け止め、拡大する外国人旅行需要に対応すべく、HPの多言語化や情報共有・発信のプラットフォームの整備を進めるとともに、外部専門家を招聘して事業者・住民向け研修会を実施し地域機運の醸成を図る。

実施に際しては、民間企業から専門人材の派遣を受け各事業の進捗管理、販路拡大のほかモニターツアーの実施などにより地域産業の連携、資源の価値を高め、加えて各種ノウハウの提供により地域の人材育成も図ることにより、目指す将来像を実現する。

(6) 事業内容（平成30年度分）

- ① スポーツツーリズム（市／DMO）【実績額：12,366,200円／計画額：12,350,000円】
 ○大手アウトドアメーカーとの連携によるネイチャーツーリズムの聖地化
 ○自然を題材とした体験商品の造成と受入環境整備
 ○男鹿半島なまはげライド補助金
- ② なまはげ文化ツーリズム（市直接）【実績額：8,029,317円／計画額：8,302,000円】
 ○地域素材の磨き上げ、統一プロモーションの実施
 （1）地域産品を活用した特産品開発事業
 （2）文化遺産登録推進事業
 ・ユネスコ無形文化遺産登録推進事業
 ・日本遺産登録推進事業
- ③ なまはげ文化ツーリズム（DMO）【実績額：1,912,780円／計画額：1,862,000円】
 ○地域素材の磨き上げ、統一プロモーションの実施
 （3）地域機運の醸成（事業者及び住民ごとに実施）
 （4）地域素材の磨き上げ、着地型旅行商品造成
- ④インバウンド向け誘客（DMO）【実績額：2,301,865円／計画額：2,408,000円】
- ⑤共通事項（DMO）【実績額：14,855,355円／計画額：14,800,000円】

4 重要業績評価指標及び実績（上段：KPI、下段：実績）

	項目	事業 開始前	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
			H30	R1	R2	R3	R4
1	男鹿版DMOにおける旅行商品等売上収入額（千円）	2,433	2,933 (500)	3,433 (500)	4,433 (1,000)	5,933 (1,500)	7,933 (2,000)
			3,364 (931)	—	—	—	—
2	男鹿版DMOが造成する旅行プラン延参加者数（人）	0	300 (300)	600 (300)	1,100 (500)	1,800 (700)	2,800 (1,000)
			405 (405)	—	—	—	—
3	文化・自然を題材とした体験プラン商品造成数（個）	0	3 (3)	6 (3)	11 (5)	18 (7)	25 (7)
			4 (4)	—	—	—	—
4	男鹿版DMOが造成する旅行プランによる市内延宿泊者数（人）	0	100 (100)	200 (100)	350 (150)	550 (200)	850 (300)
			144 (144)	—	—	—	—

5 事業経費の内訳

事業内容	事業費	経費内訳
▼スポーツツーリズム推進	12,366,200 (12,350,000)	・大手アウトドアメーカーとの連携 (DMO) 10,800,000 ・自然を題材とした体験商品造成 (市) 1,066,200 ・男鹿半島ナマハゲライド補助金 (市) 500,000
▼なまはげ文化ツーリズム推進	8,029,317 (8,302,000)	・地域素材の磨き上げ(市) 8,029,317 特産品開発事業 4,524,199 文化遺産登録推進事業 3,505,118
▼なまはげ文化ツーリズム推進	1,912,780 (1,862,000)	・地域素材の磨き上げ (DMO) 1,912,780 地域機運の醸成 53,766 地域素材磨き、着地型旅行商品 1,859,014
▼インバウンド向け誘客	2,301,865 (2,408,000)	・情報発信とプロモーション (DMO) 2,301,865
▼DMO 共通事項	14,855,355 (14,800,000)	・専門職員の雇用 (DMO) 10,482,675 ・マーケティング (DMO) 4,372,680
総事業費 (実績) 交付金計画事業費	39,465,517 (39,722,000)	
交付金対象経費総額 (実績) 交付金額の確定額	39,343,182 19,671,591	

6 事業の効果

(1) 事業の効果

地方創生に非常に効果があった (現在進行形)。

(2) 事業効果の説明

男鹿市と DM0 候補法人である市観光協会が進める事業であるが、2018 年度は男鹿のナマハゲのユネスコ無形文化遺産登録及び北前船の日本遺産登録などのほか、道の駅おがオガールの開業、JR 男鹿線新男鹿駅の開業も含めて、受入れ体制強化やツアー造成に一定の効果をあげられた。また、近年注目度が高いにも関わらず、受入れ体制に不安の大きかった雲昌寺のあじさいにおいても、DM0 を中心に体制整備に協力し、期間中で 45,000 人の有料観覧者の受入れに成功した。

また、国定公園として、またジオパークとして、景観の良さが売りの当地域において、スポーツツーリズムの推進と同時に、車窓以外からの景観を楽しむ手法の一つとして、e-Bike (電動アシスト付き自転車) を核としたレンタサイクル事業を男鹿駅周辺で立ち上げる準備を進めた (2019 年 4 月から運用開始)。

さらにユネスコ無形文化遺産に登録された「男鹿のナマハゲ」については、ユネスコ登録を契機として、長年の課題であった大みそかの行事見学受入れについて、受入町内会の公募から行い、地域へおちるお金 (ナマハゲの伝承のため) も含めたツアー実施を行った。非常に好評であり、観光ではない行事に参加できるとともに、地域の方とのふれあいを含めてツアーの評価は高かった。また、県内で行われた学会を対象としたエクスカージョンの造成も行い、観光

協会が行うべき着地型ツアー造成のあり方を検討することができた。

インバウンド受入れでは、台湾を中心としたプロモーション展開を図り、さらにサイクリングについて営業展開を行った。また、受入れ強化の一環として、キャッシュレス決済の導入や手ぶら観光の促進として、男鹿駅観光案内所での有料手荷物預かりサービスの開始などを事業化した。手荷物預かりサービスは秋田県内で初めて、国土交通省の手ぶらカウンター認証を受けた。

7 今後の方針

(1) 今後の方針

事業の継続（地方創生交付金は平成 34 年度まで事業採択を受けている）

(2) 今後の方針の理由

市と観光協会、観光事業者全体で今後の男鹿半島の観光振興のあり方を考えていく必要があり、ユネスコ無形文化遺産登録、道の駅おがオガーレの開業などの新たな波を一過性のものにせず、定着させていくことが必須である。その追い風を受けて、旅行商品の造成や各種事業を通して、DMO だけでなく地域が稼ぐ仕組みづくりを行うとともに、地域全体で観光振興に取り組んでいくことが求められており、事業の継続が望まれているため。